

2021年度学習院大学史学会総会

第37回学習院大学史学会大会

日程 2021年6月19日(土)

開催方式 Zoomを用いたオンライン開催
(参加無料、申込方法は裏面をご参照ください)

総会 9:30 ~ 10:45

大会

●研究報告

【第1部】 11:00 ~ 12:00

9世紀の交替公文から見た国司交替制

佐々木雄介 (国文学研究資料館)

【第2部】 13:00 ~ 14:00

近世中後期の御所取次と幕府—土山家の家格上昇運動を事例に—

細谷篤志 (学習院大学大学院博士後期課程)

秦末における里耶地域と「南楚江南」

杉浦仁誼 (学習院大学大学院博士後期課程)

【第3部】 14:10 ~ 15:10

史料『大眼目』と北一輝

菅原薫仁 (学習院大学大学院博士後期課程)

アングロ=サクソン期イングランドのチャーター

岡本孝信 (学習院大学大学院博士後期課程)

●講演 15:30 ~ 17:45

開国前夜の天皇・朝廷と鷹司政通

佐藤雄介 (学習院大学文学部史学科准教授)

イスマイル・ユルバンと近代の地中海世界

工藤晶人 (学習院大学文学部史学科教授)

第37回学習院大学史学会大会

研究報告要旨

第1部

9世紀の交替公文から見た国司交替制

佐々木雄介

中央による国司の監察は、遣使によるものであったが、8世紀末から9世紀初めには交替公文の勘会を中心としたものに転換していく。そこで、法令や交替公文、さらに寺社などに残された公文から、実態としての交替公文の記述を追い、その制度の変遷と中央・地方間の関係性を再考する。

第2部

近世中後期の御所取次と幕府—土山家の家格上昇運動を事例に—

細谷篤志

近世朝廷の運営を下支えした口向役人は、朝廷下級役人でありながら在京幕臣たる禁裏付武家の支配下にあった。とくに口向役人の筆頭職「取次」は、禁裏付武家による口向支配を直接に支える役割があった。本報告では、近世初期以来、世襲で取次を務めた土山家が、近世中後期において幕府に対して行った家格上昇運動を検討する。ここから幕府に寄与する役職としての、取次の幕臣的性格が読み取れることを指摘し、実務レベルでの近世朝幕関係の一端を明示する。

秦末における里耶地域と「南楚江南」

杉浦仁誼

本報告では、秦代の出土史料である『里耶秦簡』に注目し、『里耶秦簡』の出土した里耶地域について考察を加える。またその里耶地域を含めた「南楚江南」という地域に着目し、その地域が秦帝国の中でどのような特徴を持った地域であったのかについても言及する。

第3部

史料『大眼目』と北一輝

菅原薫仁

1920年12月5日に角田清彦が署名し、「民衆食堂」から発行されている小冊子『大眼目』は、『労働運動』（1921年3月20日）に「北君が書いたもので、署名は何故か角田清彦君としてある」と記されており作者推定には議論がある。本報告では、史料『大眼目』について史料批判を行い、後期北の思想研究の基礎部分から検討を行うと共に、史料的制約に起因して研究史上に屹立している「思想の一貫性」問題の突破を試みる。

アングロ＝サクソン期イングランドのチャーター

岡本孝信

イングランド初期中世のアングロ＝サクソン期の史料として、土地や特権の譲渡などが記録された文書であるチャーターが存在する。これらは包括的にカタログ化され、その詳細が明らかにされている。しかし、カタログに収録されたチャーターはその現存状況などから、問題点が指摘されている。本報告では、アングロ＝サクソン期のチャーターの概要と問題点、それらを利用する際の留意点について考えたい。

●参加申込方法

下記 URL よりお申し込みください。

<https://forms.gle/YY1xr1Mmy5Y4u1K97>

※右の QR コードからもアクセスできます。

申込締切：2021年6月16日（水）

2021年6月18日（金）に参加に必要な情報や配付資料についてのご連絡を差し上げます。

